

要緊急安全確認大規模建築物の耐震診断の結果について

■学校(小学校、中学校、中等教育学校の前期課程若しくは特別支援学校)

No.	建築物の名称	建築物の位置	建築物の主たる用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上必要な部分の地震に対する安全性の評価の結果	耐震改修等の予定		備考
						内容	実施時期	
1	加賀市立片山津中学校 校舎棟	石川県加賀市潮津町レ 1-1	中学校	(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(1990年版)	$I_s/I_{so} = 1.20 \quad C_T \cdot S_D = 0.63$	—	—	

■集会場、公会堂

No.	建築物の名称	建築物の位置	建築物の主たる用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上必要な部分の地震に対する安全性の評価の結果	耐震改修等の予定		備考
						内容	実施時期	
1	加賀市文化会館	石川県加賀市山代温泉北部2丁目68番地	集会場	(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	$I_s/I_{so} = 1.29 \quad C_{TU} \cdot S_D = 0.83$	—	—	
2	加賀市山中温泉文化会館	石川県加賀市山中温泉西桂木町ト-5-1	集会場	(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	$I_s/I_{so} = 0.48 \quad C_{TU} \cdot S_D = 0.32$	建替え	R10頃	

要緊急安全確認大規模建築物の耐震診断の結果について

■ホテル、旅館

No.	建築物の名称	建築物の位置	建築物の主たる用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上必要な部分の地震に対する安全性の評価の結果	耐震改修等の予定		備考
						内容	実施時期	
1	矢田屋松濤園	石川県加賀市片山津温泉セ1-1	旅館	(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	$I_s/I_{so} = 0.25$ $C_{TU} \cdot S_D = 0.20$	耐震改修	未定	
2	季がさね	石川県加賀市片山津温泉乙30-1	旅館	(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	$I_s/I_{so} = 0.26$ $C_{TU} \cdot S_D = 0.21$	耐震改修	未定	1階～8階
				(一財)日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2009年版)(鉄骨が充腹材の場合)	$I_s/I_{so} = 0.42$ $C_{TU} \cdot S_D = 0.33$			高層部1階
3	加賀観光ホテル ゆらら棟	石川県加賀市片山津温泉ウ41番地、31番地、52番地1、54番地2	旅館	(一財)日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2009年版)(鉄骨が非充腹材の場合)	$I_s/I_{so} = 0.30$ $C_{TU} \cdot S_D = 0.19$	耐震改修	未定	1階～5階
				(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	$I_s/I_{so} = 0.20$ $C_{TU} \cdot S_D = 0.08$			6階～9階
4	ホテル北陸「古賀乃井」中央棟	石川県加賀市片山津温泉ア-5	旅館	(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	$I_s/I_{so} = 0.13$ $C_{TU} \cdot S_D = 0.06$	耐震改修	未定	
5	湯快リゾート 山中グランドホテル	石川県加賀市山中温泉上野町ル15-4	旅館	(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	$I_s/I_{so} = 1.01$ $C_{TU} \cdot S_D = 0.63$	-	-	A:宿泊棟 B:レストラン棟
6	大江戸温泉物語 ながやま	石川県加賀市片山津町ム16	旅館	(一財)日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2009年版)(鉄骨が非充腹材の場合)	$I_s/I_{so} = 0.33$ $C_{TU} \cdot S_D = 0.25$	耐震改修	未定	1～7階
				(一財)日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」(2011年版)	$I_s = 0.18$ $q = 0.21$			3、4、7階一部
7	山下家	石川県加賀市山代温泉18-124	旅館	(一財)日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2009年版)(鉄骨が非充腹材の場合)	$I_s/I_{so} = 1.22$ $C_{TU} \cdot S_D = 0.58$	-	-	1～3階
				(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	$I_s/I_{so} = 1.06$ $C_{TU} \cdot S_D = 0.65$			1階一部、4～7階

附表 耐震診断の評価の結果と構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価

耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性		
	I	II	III
(一財)日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」(2011年版)	$I_s < 0.3$ 又は $q < 0.5$	左右以外の場合	$0.6 \leq I_s < q$ かつ $1.0 \leq q$
(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(1990年版)	$I_s/I_{so} < 0.5$ 又は $C_T \cdot S_D < 0.15$	左右以外の場合	$1.0 \leq I_s/I_{so}$ かつ $0.3 \leq C_T \cdot S_D \leq 1.25$
			$1.25 < C_T \cdot S_D$
(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	$I_s/I_{so} < 0.5$ 又は $C_{TU} \cdot S_D < 0.15 \cdot Z \cdot G \cdot U$	左右以外の場合	$1.0 \leq I_s/I_{so}$ かつ $0.3 \cdot Z \cdot G \cdot U \leq C_{TU} \cdot S_D$
(一財)日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(1997年版)	鉄骨が充腹材の場合	左右以外の場合	$1.0 \leq I_s/I_{so}$ かつ $0.25 \cdot Z \cdot G \cdot U \leq C_T \cdot S_D$
	鉄骨が非充腹材の場合		$1.0 \leq I_s/I_{so}$ かつ $0.28 \cdot Z \cdot G \cdot U \leq C_T \cdot S_D$
(一財)日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2009年版)	鉄骨が充腹材の場合	左右以外の場合	$1.0 \leq I_s/I_{so}$ かつ $0.25 \cdot Z \cdot R_t \cdot G \cdot U \leq C_{TU} \cdot S_D$
	鉄骨が非充腹材の場合		$1.0 \leq I_s/I_{so}$ かつ $0.28 \cdot Z \cdot R_t \cdot G \cdot U \leq C_{TU} \cdot S_D$

I. 地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が高い

II. 地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性がある

III. 地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が低い

(※)震度6強から7に達する程度の大規模の地震に対する安全性を示す。

いずれの区分に該当する場合であっても、違法に建築されたものや劣化が放置されたものでない限りは、震度5強程度の
中規模地震に対しては損傷が生ずるおそれは少なく、倒壊するおそれはないとされている。

(※)備考欄に記載が無い場合は、 $Z=1.0$ 、 $G=1.0$ 、 $U=1.0$ として評価を示す。